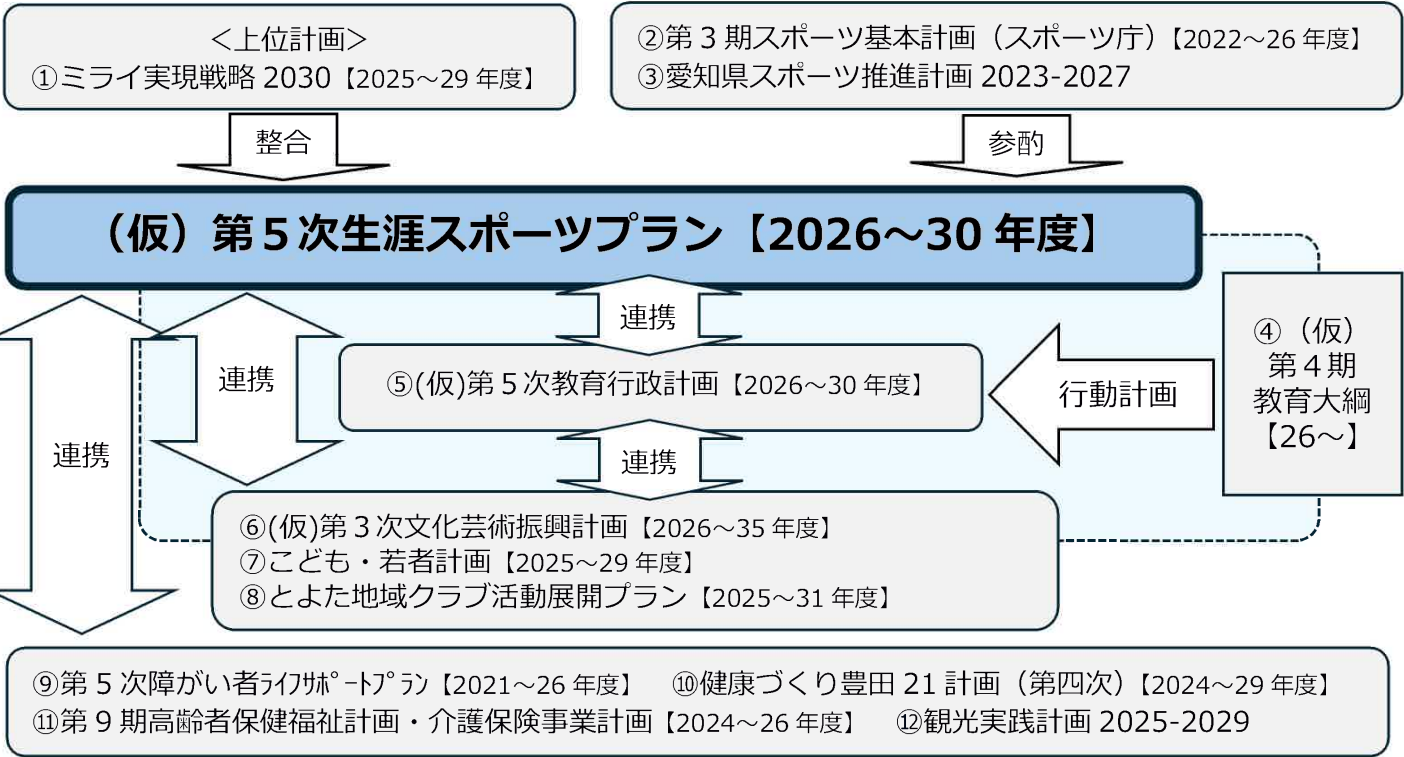


1 プラン策定の目的

- スポーツは、心身の健全な発達、目標や夢の形成、健康増進、生きがいづくり、地域経済の活性化、地域の一体感の醸成、多様性の理解等、私たちの暮らしや人生を豊かにするもの
- 一方で、人口減少、少子高齢化、熱中症リスクの増大、デジタル化の進展等、スポーツを取り巻く環境は大きく変化
- こうした環境変化の中にあっても、本市スポーツ行政を計画的かつ効果的に推進していくため、その方向性や注力すべき施策等を整理したプランを策定することで、市民が生涯にわたりスポーツに親しめるまちづくりを目指す。

2 プランの位置付け・期間



- ＜キーワード＞
- ①こどもの体験機会の充実、人生 100 年時代の活躍支援、あるものを生かす、誰もがつながり合うまちづくり、安心・安全で魅力的なまちづくり
 - ②多様な主体の参画促進、人々がつながるきっかけ、誰もがスポーツにアクセス可能
 - ③多様な主体、こども、トップアスリート育成、アジア・アジアパラ競技大会、地域活性化
 - ④⑤⑥【策定中】
 - ⑦こどもの遊び・体験の機会充実
 - ⑧全ての中学生にスポーツ・文化芸術体験機会を提供
 - ⑨障がい者の文化・スポーツ活動の推進
 - ⑩身体活動・運動の推進、健康寿命の延伸
 - ⑪自分らしく生きられる、安心して生きられる、支え合いのまちづくり
 - ⑫地域内消費の拡大を図るスポーツツーリズムの推進

3 現状・課題

- ＜こどもの「する」スポーツの推進＞
- 熱中症リスク増大、小学校の部活動の廃止等、スポーツを取り巻く環境変化によりスポーツ実施率は減少傾向。一方で、スポーツすることが好きな割合は高い結果
- ➡スポーツ好きなこどもに、今以上にスポーツに取り組んでもらうよう、多様なスポーツ機会を提供するとともに、身近な場所で気軽にスポーツに取り組める環境を整備していくことが必要
- ＜成人の「する」スポーツの推進＞
- 仕事・家事・育児等で自分の時間が持てない子育て世代、体力の低下でスポーツに取り組みづらくなった高齢世代等、世代によってスポーツをしない理由は様々
- ➡各世代のニーズやスポーツを行う上での障壁を踏まえた上で、ライフステージに応じたスポーツ機会を提供していくことが必要
- ＜障がい者の「する」スポーツの推進＞
- 週 1 回以上スポーツを実施する割合は国の目標と比べ低い状況。特にこどもに比べ、成人のスポーツ実施率が低い。一方で、運動やスポーツをしたいと思っている割合は高い傾向
- ➡関係団体との連携強化を図り、スポーツを行う上での様々な障壁を排除し、誰もが楽しめるスポーツ・レクリエーションの体験機会を拡充していくことが必要
- ＜トップアスリート・スポーツチームとの連携＞
- トップアスリート・スポーツチームと連携した体験講座や交流イベントを拡充して実施中
- ➡本市の強みであるトップアスリート・スポーツチームと連携した取組を一層拡充するとともに、市民の応援機運を醸成し、試合観戦につなげていく取組が必要
- ＜豊田スタジアム・スカイホール豊田を生かした「みる」スポーツの推進＞
- アジア・アジアパラ競技大会が開催される一方で、パロマ瑞穂スポーツパーク等の近隣スポーツ施設の開業で、今後、市内で開催されるスポーツイベント・大会が減少する可能性
- ➡施設機能の向上や、市内のスポーツ資源の活用促進により、新たなスポーツイベント・大会の誘致にも取り組んでいくことが必要
- ＜スポーツツーリズムの推進＞
- 大規模スポーツイベント開催時の市内消費額はコロナ禍以降減少傾向。併せて、スポーツイベント・大会の減少に伴い、来訪者（観戦客）も減少する可能性
- ➡集客向上につなげる取組、市内周遊や宿泊につなげる等、地域活性化に向けた仕組みづくりが必要
- ＜スポーツを「支える」人材育成・スポーツ関係団体との連携強化＞
- 人口減少や超高齢社会の到来によりスポーツを支える活動に携わる人材が今後減少するとともに、スポーツ関係団体が弱体化する可能性
- ➡部活動の地域展開や地域スポーツの推進に向け、スポーツ人材の発掘・育成を進めるとともに、スポーツ関係団体への支援や連携の強化を図っていくことが必要
- ＜安心・安全なスポーツ施設の運営と利便性向上＞
- 施設への空調導入や施設予約の利便性向上に関する市民ニーズが高い状況
- ➡空調導入やシステム改修・構築により、快適で利便性の高いスポーツ環境の構築が必要。また、市民の選択肢を広げるため、民間スポーツ施設との連携を強化していくことが必要
- ＜積極的なスポーツ情報の発信＞
- スポーツに関する情報不足を感じる市民の割合が高い状況
- ➡様々な媒体を使って、施設情報やイベント・教室情報等をわかりやすく発信していくことが必要

(仮称) 第5次豊田市生涯スポーツプラン体系(案)

目指す姿	誰もが生涯にわたり、スポーツに親しみ、 スポーツで人と人とがつながるまち とよた	基本方針 「目指す姿」の実現に向けた 施策展開の方向性	1. スポーツを全ての市民にとって身近な存在にする 2. 豊富なスポーツ資源を、まちの魅力創造につなげる 3. 多様な担い手と連携し、市民のスポーツの裾野を広げる 4. 安心・安全・快適にスポーツに取り組める環境を構築する
------	---	-----------------------------------	--

重点プロジェクト	こどものスポーツ実施を 支える環境構築	●こどもの時期にスポーツを体験することは、生涯を通じてスポーツに親しむきっかけとなるため、重点的に取り組んでいく。 ●具体的には、「こども園や小中学校でのスポーツ体験機会の提供」、「とよた地域クラブ活動の展開」、「アスリートとの交流事業の実施」、「地域スポーツクラブ等との連携強化」、「空調導入等のスポーツ環境の整備」等の取組を一体的に推進することで、スポーツ好きなこどもを増やし、スポーツ実施率を向上させる。 ●取組に際しては、地域スポーツクラブ、企業・大学、地域の指導者等との連携を深めることで、こどものスポーツ環境を充実させていく。
----------	------------------------	---

基本施策 基本方針に基づき、着実に実施する施策		主な取組内容	評価指標	基準値
する	(1) こどもが楽しくスポーツに取り組める機会の提供	●こども園での運動遊び教室、小学校での スポーツ体験講座 ●とよた地域クラブ活動の展開	①スポーツをすることが好きな児童・生徒の割合【↑】 ②1週間の総運動量が60分未満の児童・生徒の割合【↓】	①小 90.9%(R6) 中 84.0%(R6) ②小 14.6%(R6) 中 14.5%(R6)
	(2) 体力や趣向に応じた成人へのスポーツ機会の提供	●親子向け、職場向けの教室事業 ●高齢者向けの健康増進事業	③成人のスポーツ実施率(週1回以上)【↑】	③53.0%(R6)
	(3) 障がい者が気軽にスポーツに取り組める機会の提供	●関係団体と連携した教室事業 ●競技用装具の補助制度の創設	④障がい者のスポーツ実施率(週1回以上)【↑】	④17.8%(R4)
楽しむ	(4) こどもと本市ゆかりのアスリート、スポーツチームとの交流の推進	●こども園、小中学校での交流事業 ●スポーツイベントや教室等での交流事業	⑤本市ゆかりのアスリート・スポーツチーム等と交流した 園児・児童・生徒の割合【↑】	⑤園児 33.1%(R6) 児童 72.5%(R6) 生徒 3.9%(R6)
	(5) 本市のスポーツ施設や本市ゆかりのアスリート・スポーツチームと連携した「みる」スポーツの推進	●スポーツイベント・大会等の誘致・市民招待 ●本市ゆかりのアスリート等に関する情報発信	⑥現地でスポーツ観戦した市民の割合【↑】	⑥39.8%(R6)
	(6) 地域活性化に効果的なスポーツツーリズムの推進	●スポーツイベント・大会等の誘致 ●来訪者の市内消費拡大に向けた取組	豊田スタジアム、スカイホール豊田における ⑦スポーツイベント・大会数【↑】 ⑧観客数【↑】 ⑨スポーツイベント・大会開催時の市内消費額【↑】	⑦豊 11 件(R1)、ス 19 件(R6) ⑧豊 386,407 人(R1)、ス 69,130 人(R6) ⑨5,805 円(チケット代を除く R4～6 の平均)
支える	(7) スポーツ関係団体への支援の強化と連携の推進	●地域スポーツクラブをはじめとしたスポーツ 関係団体との連携強化 ●スポーツボランティアとよたの活動の推進	⑩地域スポーツクラブの会員数【↑】 ⑪スポーツボランティアとよたの会員数【↑】	⑩算定中 ⑪2,989 人(R6)
	(8) こどものスポーツ活動を支える仕組みづくりの推進	●豊田市地域指導者人材バンクの運用 ●こどものスポーツ活動に係る情報集約・発信	⑫スポーツを「支える」活動をした市民の割合【↑】 ⑬とよた地域クラブ活動の指導者数【↑】	⑫7.1%(R6) ⑬657 人(R6)
	(9) 安心・安全・快適なスポーツ施設環境の構築	●スポーツ施設への空調の導入、屋外照明の LED 化 ●TOSS の改修、学校開放のシステム化	スポーツ施設、学校施設の ⑭利用者数【↑】 ⑮利用満足度【↑】	⑭ス 2,275,732 人(R6) 学 858,048 人(R6) ⑮ス 今年度に調査を実施 学 今年度に調査を実施